

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
項目番号61 ○日常的な外出支援
項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
項目番号63 ○電話や手紙の支援
項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 健康倶楽部 郡山グループホーム「オークヒルズ」

(ユニット名) A棟

記入者(管理者)
氏名 池田 久栄

評価完了日 平成19年 10月 15日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所理念・ユニット目標をあげ達成できるように取り組んでいる。	地域密着型サービスとなり、法人のグループホーム従事者が集まり、新しい理念を掲げ、実現に向けて取り組みをしている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で日々話し合いをする機会を設け、共有出来る努力をしている。	GHらしい、ゆとりを持ってケアをすることを心がけている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	年に2～4回発行する地域広報誌などで理解を求めている。日常の様子のほかボランティアの要請なども組み込んでいる。	継続し広報誌の発行を行っていく。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々お会いした時、随時挨拶をしている。回覧板をお客様と届けに行ったりする。	気軽に立ち寄れる関係作りを行っていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事などの誘いを受け参加している。運営推進会議にも参加していただいている。	継続し、地域行事に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	けんこう教室を定期的開催し、地域に必要な講習会を開催している。		定期的にけんこう教室を開催し、地域の方の困りごとなど相談窓口になっていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ケアの向上に繋げていくため、評価・改善し、弱点を強化していく。会議内容に評価項目をいれ検討会を行っている。		前回指摘があったところをリーダーが中心となり改善し、継続し職員に周知している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	防災の協力体制の依頼など行っている。けんこう教室を開催する際、何を知らたいかなどの希望を伺っている。		これからの評価内容で出た改善方法なども、ご相談して、協力を求めている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	郡山市で開催する福祉フェスティバルに毎年参加し、グループホームの説明を市民の方にお伝えしている。		市が主催するもの・依頼があったものは対応していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員会議や勉強会を利用し、制度の説明など管理者が行っている。		新人が入ってきたときの、OJTの項目にしていき、定期的に、学ぶ機会を設けたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	会議等で話し合っている。虐待防止の意識を強くもって、ケアにあたっている。		研修会などに参加していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約時、管理者より十分な説明を行い、随時要望が伺える体制があること伝えている。	継続し対応していく。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	お客様の声を不満や要望としてとらえ、ミーティングを開催している。お客様会議を週に1回開催している。	お客様会議を継続し、サービスの質の向上に繋げていきたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	面会時や受診報告時、日常の様子もお伝えしている。毎月発行の広報誌には個々にコメントを添えている。	広報誌発送時のコメントを継続し、日常の様子が伝わりやすいようにしていきたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	第三者委員のお知らせと苦情受付責任者の配置を行い、掲示している。	意見・要望を言いやすい環境を整えていきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	職員・管理者間の面接の機会を定期的に設けている。管理者への要望・提案は随時間き取りして業務に反映している。又、職員会議には事業部次長が出席している。	職員会議・合同ミーティングの場をもっと活用して行きたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	受診やイベントに合わせて話し合いにうえ、調整を行い、職員の配置を整えている。	今後も日々の業務内容で調整し、ご利用者に負担にならない様配慮していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等でお客様に混乱が起きないように申し送りやコミュニケーションの時間を多くとっている。		情報を事前に把握することで対応していく。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修計画に沿い、内部研修・外部研修と各職員に合った研修に参加出来るようにしている。		研修参加をし、個のスキルを上げていくのはもちろん、他のスタッフへ水平展開していく。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入会しているため他の事業所との情報交換等行い、管理者はGH協議会の理事を務めている。又内部研修では各法人の職員とスキルを高めることが出来る。		他のグループホームの見学などおこなってみたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内の交流会など、職員間で話を出来る場が設けられている。又、休憩時間を設け、気持ちをリセットできるようになった。		休憩時間の意味を職員全員で理解し、互いに調整し時間を有効に利用していきたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	目標管理制度を半期ごとに設定している。目標を持ち業務にあたっている。		高い目標をもち自己啓発をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)	/	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	知識(調理等)を教えてもらう機会を設け、知識を引き出す働きかけを行っている。又、一緒に笑うことを大切にしている。	笑顔で過ごし、共に生活を楽しくしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と相談し、ケアプランの作成を行っている。経過報告の際状況を共有している。		ご本人を尊重しご家族に相談しながらケア内容を検討していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	お客様がGHで穏やかに過ごされることで、ご家族との関係回復も出来た。又、要望を実現させる希望の月を実行し、ご家族と共に計画・実行している。		希望の月を継続し行っていきたい。職員がフォローする形でお客様とご家族の時間が持てるようにしたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	在宅の頃から利用していた美容室へ通っている。		継続し支援をして行きたい。ご家族の要望も取り入れ計画し実行していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個性を見極め居場所作りをしている。淋しい思いをしないように仲介に入り他者との関係を保っている。		個人を見極め互いに穏やかに生活出来る様支援していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居時いつでも相談窓口になれる旨をお伝えし対応している。退居後も電話や来所で相談を受けている。		継続し対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当の探りや日常の会話から希望や意向を聞き取り把握している。又、センター方式の用紙を活用し分析し、ケアプランに反映させている。	希望・意向を把握し、具体策を考えていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際ご家族より聞き取りを行っている。又、面会時など状況報告と一緒に昔の話をきき、ケアプランに組み込んでいる。	ご家族と共に状況を把握し今後の検討をして行きたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	把握したい項目に応じ、センター方式のシートを利用している。日々の変動に活用している。	状況に適したセンター方式書式を活用し、職員統一をはかっていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室担当がアセスメントを行い、定期的にカンファレンスを行っている。	変化を逃さず柔軟な対応ができるようにしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎の見直しのほか、状況に変化が合った場合、変更・追加し、現状に必要なプランの作成を行っている。	継続し対応していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランのサービス内容に関してはすべて、記録し、スタッフ間の共有を行っている。		ケアプラン中心の記録を継続し、追記の記載も重ね行っていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小・中学生が来所し楽しい時間を過ごせている。今年度はボランティアによる日本舞踊の鑑賞会を行う事が出来た。		緊急時の応援体制が取れるようにして行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理容など利用している。ADL状態によって利用ご家族と検討している。		継続し対応していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の出席や在宅復帰への相談窓口として情報を得ている。		継続した関わりを持ち、互いに協力体制をとっていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅でお世話になっていたかかりつけ医に継続し通院している。又、ご家族・ご本人の希望で受診病院を決めている。		今後も主治医のDrにお世話になりながら、専門医が必要な場合はご家族と相談しながらきめていきます。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医に日常の様子を伝え、相談・助言を受けている。		同上
45			
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中に面会を継続し、馴染みの関係の継続と病院スタッフとの連携を作り、SWやNSとの情報交換を密にし、状況をご家族ともに把握し、早期の受け入れの可能性や退院後の検討をその都度行っている。		適切な対応が出来る様にご家族の協力を得ながら対応していきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の指針を説明し同意を得ている。身体機能低下時にご家族とその都度相談し状況に合ったケアをご家族の協力を得ながら行っている。	○	重度化の指針は取り決めているが定期的に看取りに関しての勉強会を開催していきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	病院との連携を取り、急変時の体制をとっている。		終末期に向けて、チーム全体で準備をし、ご家族と協力の下行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ケアプラン説明時、混乱しないために何が必要か随時説明し、外出・外泊時の混乱も最小限にすむようにしている。又、退居後も訪問したり、ケアマネとの連携を行っている。		継続し対応していく。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の扱いには十分注意し、プライバシーを守っている。また、居室の入室もその了承を得ている。		声掛けには十分配慮し、気分を害さないようにしたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	残存能力を大切にし、返答しやすいように声掛けをしている。個々に合わせ促し方をかえている。		過剰介護にならないようにしていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩等は希望時その都度付き添い対応している。日々の仕草の読み取りを行い、個別の時間を作りドライブや買い物に出掛けるようにしている。		分析結果や事前に対応出来る様、職員間で情報の共有をその都度行っていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	在宅生活時利用していた美容室等継続し利用している。		自発性の無い方に対して洋服などこちらで決めてしまうことがあるので、選択していただくなどで対応していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活リハビリに結びつくように食事の準備・片付けを共に行っている。また、食事をゆっくり食べられるように環境を整えている。		今後も出来る・出来ないことを見極め対応していきたい。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつを一緒に買い物に行き、選んでもらっている。既往歴により嗜好品に関しては主治医確認を取りながら対応している。		ご本人に確認しながら、好物を提供できるようにしていきたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、個々に対応している。又、排泄用品はご家族に相談しながら選んでいる。		状況変化時、柔軟に対応出来る様そのつどけんとうしていきたい。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来る限りご本人の好きな時間帯に入浴できるようにしている。希望がないは声掛けを工夫し、入浴していただいている。		職員の都合で入浴していただく日もあるので、気持ちよく入浴できる環境作りをしていきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人のペースを把握している。又、介助の必要な方は時間を伝え確認し援助している。		継続し、個のペースに合わせて対応して行きたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	お一人お一人を把握したうえで力を生かせるように働きかけている。ケアプランに入れ対応している。		楽しみの追求を今後も行い、笑顔の引き出しを行って行きたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）	買い物に出掛けた際は支払いをしていただいたりしている。自分のお金のように使用して頂きお金の価値を忘れないよう努力している。又、自己管理が出来る方にはご家族に相談し検討を行っている。		金銭感覚を忘れないようにお金をもつ機会を増やしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	希望がある場合その都度対応している。出来ない場合は代替のもので気分転換できるようにしている。		ストレスを溜め込まないようにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している（認知症対応型共同生活介護）	居室担当者がご本人の希望を叶えられるようにご家族をふまえ検討し、個別にて対応している。		今年度より設けた希望の月の実施を今後も継続していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	家族や知人からの電話には居室でゆっくり話せるようにしている。		<u>継続し対応していく。</u>
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）	いつでも面会に来ていただけるよう常に居室を整理している。面会時は居室やリビングソファでゆっくり過ごしていただいている。		継続し対応していく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を理解し、抑制のない生活を送っていただいている。		継続して対応していく。又、様々な拘束を十分理解したケアの実践を行ってきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>夜間以外施錠はしていない。突然のエスケープに対する対応のしたかの検討を行って、鍵をかけない努力をしている。</p> <p>継続して対応していく</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		<p>さりげない声掛けや夜間は巡視し、1時間以上目を話さないように安全を確認している。</p> <p>安全に生活出来る様継続し対応していく。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		<p>私物は自己管理が出来るかミーティングで話し合い検討し管理方法をきめている。危険と判断したものはホーム側で管理保管させていただいている。</p> <p>認知症の進行を考えながら随時検討し対応して行っていく。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		<p>ヒヤリハットの時点で検討策をだし事故を未然に防いでいる。</p> <p>災害等に関してはマニュアルはあるが実施できるかは不安である為、日ごろの訓練が必要になっている。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		<p>会議の時やミーティングの際マニュアルの確認を行っている。</p> <p>継続し行い、常に危機感を持つよう心がける。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>夜間想定避難訓練を実施している。昼夜問わずどの職員も対応出来る様に定期的に行うようにしている。</p> <p>地域の方にも協力していただき避難訓練を実施していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ケアプランに取り入れ説明を行っている。	○	事前に気がつたことからご家族も踏まえ検討し、対応していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化には十分注意し、管理者との連携をとり、早期の受診、主治医の連絡を行っている。		継続し、主治医との関係を保っていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容・錠数がわかりやすいように表示している。又、薬の成分による禁止事項も理解している。		与薬の事故が起きないように常に薬には敏感になりマニュアルに添って対応していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤を使用せず、排便できるようにしている。センナ茶・乳製品を個々に適したものを提供している。また、体を動かす機会を増やしたり、腹部マッサージを行っている。随時看護責任者に相談し対応している。		継続した対応で、今後も出来る限り下剤を内服せず自然排便が見られるようにしていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々に合わせ介助又は促しを行っている。		全員が毎食後口腔ケアを行える環境を整えたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量の把握をし、少ない場合は捕食等を工夫し対応している。		個々に摂取できやすいものなど把握し、栄養状態を確保出来る様、主治医・管理栄養士と協力し行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	流行の情報やお客様の症状などに注意し、感染症衛生マニュアルにより、一年を通し注意している。インフルエンザの予防接種は入居者はもちろん職員全員がうけている。		手洗い・うがい、環境整備、食品の保存など、一年間を通し注意していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	日々のチェック表があり管理している。		継続し対応していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	園芸活動を行い、花のある豊かな環境を心がけている。		草むしりやクモの巣などもう少し配慮し整備して行きたい。園芸の品種はお客様に選んでいただいている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った共同制作の壁画を飾ったり、季節感のある装飾をしている。共同制作は個々に役割を分担し協力し仕上げている。		居室内も季節の装飾をしていきたい。トイレ内の装飾も工夫している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室に腰掛け利用者同士話をしている姿多くみられている。離れたところから見守ることも大切にしている。		独りになれる空間を検討していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	ご本人の作品や写真など掲示している。ご家族に は愛用品の持込を促している。		居室にも季節感が見られるようにしたい。
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	温度・湿度には十分注意している。換気のタイ ミングも利用者に影響が無いように配慮しなが ら行っている。		季節の変わり目には十分気をつけご利用者に負担 にならない様にしたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	居室の配置は身体機能に合わせた配置にして いる。リビングの配置も全体的に判断し決 めている。		出来る事からさらに可能性を見つけ残存機能を伸 ばしていきたい。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	ご本人が出来ることを楽しみに繋がるよう日々 検討している。又、センター方式を活用し、個 々の現状を職員が共有し対応できている。		ご希望を取り入れながら環境を工夫して行き たい。
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	自由にテラスへの行き来をしている。テラスベン チで過ごされる方もいる。		安全に生活出来るように環境を整え自由に過 ごせる様にして行きたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ヒヤリハットの気付きを随時棟ミーティングを行い、ケアの向上に努めている。
- ・お一人お一人のレベルに合わせた統一ケアを心がけている。
- ・お一人お一人の笑顔を大切にしています。

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
項目番号61 ○日常的な外出支援
項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
項目番号63 ○電話や手紙の支援
項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 健康倶楽部 郡山 グループホーム「オークヒルズ」

(ユニット名) B棟

記入者(管理者)
氏名 池田 久栄

評価完了日 平成19年 10月 15日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所理念・ユニット目標をあげ達成できるように取り組んでいる。	地域密着型となり、法人のグループホーム従事者が集まり、新しい理念を掲げ、実現に向けて取り組みをしている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で日々の話し合いをする機会を設け、共有出来る様努力している。	GHらしい、ゆとりを持ってケアをすることを心がけている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	年に2～4回発行する地域広報誌などで理解を求めている。日常の様子のほかボランティアの要請なども組み込んでいる。	継続し広報誌の発行を行っていく。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	回覧版などご利用者と共に届けたり、イベント開催時などはあいさつ回りをしている。	気軽に立ち寄れるようにしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事などの誘いを受け参加している。運営推進会議にも参加していただいている。	今後も継続し、地域行事に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	定期的にけんこう教室を開催し、地域に必要な講習会を開催している。		定期的にけんこう教室を開催し、地域の方の困りごとなど相談窓口になっていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けることの意味を理解し、ケアの向上に努めている。会議内容に評価項目をいれ改善のための検討を行っている。		指摘項目はリーダーが中心となり改善し、継続しながら職員に周知している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	防災の協力体制の依頼など行っている。けんこう教室を開催する際何を知りたいかなど希望を伺っている。		評価内容・改善方法などもお伝えし、相談し協力を求めて行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	郡山市で開催する福祉フェスティバルに毎年参加し、グループホームの説明を市民の方にお伝えしている。		市が主催するもの・依頼があったものは対応していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方がいるので情報を共有し支援している。制度の説明を管理者が行っている。		新人が入職したときのOJTの項目にしていき、定期的に学ぶ機会を設けたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で受けてきたことを報告するなど理解している。		研修会などに参加していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な説明を行っている。随時要望が伺える体制があることを伝えている。	継続し対応していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	週に1回のお客様会議を行い、イベント時の要望を伺ったり、日々の生活の中に取り入れている。	お客様会議を継続し、サービスの質の向上に繋げていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や受診報告時、日常の様子もお伝えしている。毎月発行の広報誌には個々にコメントを添えている。	広報誌発送時のコメントを継続し、日常の様子が伝わりやすいようにしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し意見を記入していただくようにしている。又、面会時面会カードと共に意見欄を設けている。第三者委員のお知らせと苦情受付責任者の配置を行い、掲示している。	意見・要望を言いやすい環境を整えていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員・管理者間の面接の機会を定期的に設けている。管理者への要望・提案は随時間き取りして業務に反映している。又、職員会議には事業部次長が出席している。	職員会議・合同ミーティングの場をもっと活用して行きたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日々のミーティングを行い、業務の見直し調整を行っている。	今後も日々の業務内容で調整し、ご利用者に負担にならない様配慮していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動とがある場合、ご利用者の状況の送りを行い、リスクを最小限に出来るようにしている。		情報を事前に把握することで対応していく。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修計画に沿い、内部研修・外部研修に参加している。職員のレベルにあった研修に参加出来るようにしている。又希望の研修に参加出来るようにしている。		研修参加をし、個のスキルを上げていくのはもちろん、他のスタッフへ水平展開していく。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修に参加し、他のグループホームの方とも意見交換を行っている。又管理者はGH協議会の理事を務めている。		他のグループホームの見学などおこなってみたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内での交流会など、職員間で話を出来る場が設けられている。休憩時間を設け、気持ちをリセット出来る様にした。		休憩時間の意味を職員全員で理解し、互いに調整し時間を有効に利用していきたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人一人に教育担当がつき共に向上できるようにしている。目標管理制度を設け、各自目標達成に向けて取り組んでいる。		高い目標をもち自己啓発をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)	/	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活している中で一時一時を大切にしている。庭の菜園の収穫を行ったり、料理を共に行うなど残存機能を生かせるようにしている。	笑顔で過ごし、共に生活を楽しくしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から情報を頂いたり、出来ることを探し笑顔に繋がるようにしている。又、ケアプランに反映している。		ご本人を尊重しご家族に相談しながらケア内容を検討していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	イベントにお誘いし、普段見られない様子を見ていただく機会を設けている。要望を実現させる希望の月を実行し、ご家族と共に計画・実行している。		希望の月を継続し行っていきたい。職員がフォローする形でお客様とご家族の時間が持てるようにしたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室など継続し利用したり、面会時又来ていただけるようお願いしている。		継続し支援をして行きたい。ご家族の要望も取り入れ計画し実行していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者間で交流が図れるように仲介するようにしている。		個人を見極め互いに穏やかに生活出来る様支援していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	相談窓口になれる旨を退居の際お伝えし、対応している。退居後も電話や来所で相談をうけている。		継続し対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味や習慣が継続できるようにし、イベントや外出等を行っている。ご本人の希望が叶うように話し合いをしている。又、継続出来る様にケアプランに組み込んでいる。	希望・意向を把握し、具体策を考えていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時情報をご家族から頂いたり、生活暦を把握し職員間で共有している。	ご家族と共に状況を把握し今後の検討をして行きたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の状況に日々変動しても対応できるようにしている。介助もあたる際は残存機能を生かせるように援助している。	予想もふまえ申し送りができるようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1のカンファレンスを活用し情報の確認・共有し統一したケアができるようにしている。	変化を逃さず柔軟な対応ができるようにしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月後とのプランの変更をし、ご家族の意見もふまえ、定期的にケアプランを作成している。	継続し対応していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスの際の情報として活用できるように記録し、必要時は申し送りノートにて周知している。		ケアプラン中心の記録を継続し、追記の記載も重ね行っていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小・中学生が来所し、楽しい時間を過ごしている。イベントの際ボランティアの方に来ていただいたりしている。		緊急時の応援体制が取れるようにして行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	在宅マッサージを受けていた方が継続し利用できるようにしている。又、訪問理容を利用している。		必要時は利用出来る様、情報を集めておく必要がある。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただき、地域の情報や在宅復帰の為の相談をしている。		継続した関わりを持ち、互いに協力体制をとっていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	年齢的なことで往診医へ変更したり、ご家族と相談のうえ決定している。他、在宅生活時お世話になっていた主治医へ継続し受診している。		今後も主治医のDrにお世話になりながら、専門医が必要な場合はご家族と相談しながらきめてきた。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期受診の際相談をし、適したアドバイスを頂いている。		同上
45			
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中に面会をし、馴染みの関係の継続と病院スタッフとの連携を作り、SWやNSとの情報交換を蜜にし、状況をご家族様と共にし、早期受け入れの可能性や退院後の検討をその都度行っている。		適切な対応が出来る様にご家族の協力を得ながら対応していきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の指針の説明をさせていただき同意を得ている。身体の低下時ご家族とその都度相談し、状況に合ったケアをご家族の協力を得ながら行っている。	○	再度勉強会を行い、認識したい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	予測もふまえご家族に相談し、随時検討をはかっている。		終末期に向けてチームで全体で何が必要か話し合いを持っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族から情報を事前にいただき、混乱が最小限になるよう情報を共有している。退所後も訪問したり、ケアマネとの連携を行っている。		継続し対応していく。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報には十分注意を払い、記録や声掛けにも配慮している。		声掛けには十分配慮し、気分を害さないようにしたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己選択の場面を作り、選ぶことを大切にしている。お客様会議での意見を大切にしている。		過剰介護にならないようにしていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを確認しながら、食事・臥床時間など変更している。表情の読み取りを行い、気分転換のドライブやお買い物に出掛けるようにしている。	○	時として職員都合になってしまうことがあるので個人のペースに合わせ対応していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	洋服を日々選択し、着用していただけるようにしている。美容室や床屋の希望がある場合個々の習慣で対応できるようにしている。		自発性の無い方に対して洋服などこちらで決めてしまうことがあるので、選択していただくなどで対応していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>今後出来る・出来ないことを見極め対応していきたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>ご本人に確認しながら、好物を提供できるようにしていきたい。</p>
56	<p>○気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		<p>状況変化時、柔軟に対応出来る様そのつどけんとうしていきたい。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		<p>職員の都合で入浴していただく日もあるので、気持ちよく入浴できる環境作りをしていきたい。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		<p>継続し、個のペースに合わせて対応して行きたい。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>		<p>楽しみの追求を今後も行い、笑顔の引き出しを行って行きたい。</p>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）	ご家族と相談し所持したり、支払いの機会を設けたりとお金の価値を忘れないように努力している。		買い物の機会をもっと増やしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	買い物・散歩など促し実施している。出掛けることが難しい方でも外気浴をしたり気分転換を図っている。		屋外へ出る機会を増やしストレスを溜め込まないようにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している（認知症対応型共同生活介護）	希望の月を設け、ご本人・ご家族もふまえ検討し実施している。		今年度より設けた希望の月の実施を今後も継続していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	電話をかけることは無いが、家族や知人からの電話は対応している。年賀状を自筆にてご家族に出せるよう支援している。		かけたいと希望が聞かれる方もいるので、ご家族も踏まえ検討していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）	面会時はほとんど居室にて談話されている。いつでも面会に来ていただけるように環境を整えている。		継続し対応していく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通し理解し職員共通認識をしている。		継続して対応していく。又、様々な拘束を十分理解したケアの実践を行ってきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠していない。自由に出入りできるようにしている。言葉の拘束の行わないように心がけている。突然のエスケープに対する対応の仕方の検討を行って鍵をかけない努力をしている。		継続して対応していく
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に目配りしご利用者の所在確認を行っている。夜間は1時間ごとに巡視している。		安全に生活出来る様継続し対応していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物は職員・ご家族と検討し管理方法を決めている。リスクが高いものは事務所にて保管している。		認知症の進行を考えながら随時検討し対応して行っていく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを活用し、ミーティングを行っている。事故を未然に防ぐ為、対応を統一し危機感を持って対応している。		災害等に関してはマニュアルはあるが実施できるかは不安である為、日ごろの訓練が必要になっている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルに添い対応できるようにしている。緊急時の体制を定めている。		定期的に訓練が行えるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定避難訓練を実施している。昼夜問わずの職員も対応出来る様に定期的に行うようにしている。	○	地域の方にも協力していただき避難訓練を実施していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	事故報告はもちろん、ケアプラン説明時予測もふまえて説明している。		事前に気がついたことからご家族も踏まえ検討し、対応していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の場面場面で確認し、管理者に状況報告をしている。主治医との連携を密に行なっている。		継続し、主治医との関係を保っていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服変更の際は十分注意し申し送りを行っている。マニュアルに添いセット・内服確認を行っている。		与薬の事故が起きないように常に薬には敏感になりマニュアルに添って対応していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	センナ茶・乳製品で個々の嗜好に合わせたもので自然排便できるようにしている。運動する機会を多く持つようにしている。随時看護責任者に相談をしている。		継続した対応で、今後も出来る限り下剤を内服せず自然排便が見られるようにしていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々のレベルに合わせて対応している。		全員が毎食後口腔ケアを行える環境を整えたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食チェックし、不足している方に関して高カロリーのものを提供したり、水分量・食事量を一目でわかるようにしている。		個々に摂取で気安いものなど把握し、栄養状態を確保出来る様、主治医・管理栄養士と協力し行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	流行の情報やお客様の症状に注意し、感染症衛生マニュアルにより、一年を通して注意している。インフルエンザの予防接種は入居者はもちろん職員全員が受けている。		手洗い・うがい・環境整備・食品保存など、一年を通し注意していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫に温度・衛生チェックを毎日チェックし管理している。		継続し対応していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	テラスに花を植え、外環境を整え雰囲気を作っている。		草むしりやクモの巣などもう少し配慮し整備して行きたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	意見をいただき環境を整え、季節に合わせて装飾している。		天窓の日差しを工夫していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の場となれるように環境を整え配置を考えている。		独りになれる空間を検討していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室には自宅のものを持ち込んでいただけ るようにご家族にお願いしている。		居室にも季節感が見られるようにしたい。
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に 応じてこまめに行っている	天候に合わせて日々の温度・湿度調整を行 い、衣類への配慮も行っている。又、定期 的に換気を行っている。温室時計は各居 室に設置し管理している。		季節の変わり目には十分気をつけ利用者 に負担にならない様にしたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生 活が送れるように工夫している	動線を考え居室の配置を検討し、ご家 族に了承を得ている。残存機能を生か し、過剰介護にならないように注 意している。		出来る事からさらに可能性を見つけ 残存機能を伸ばしていきたい。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	出来る・出来ないことを見極め職員 間で共通認識し対応している。		ご希望を取り入れながら環境を 工夫して行きたい。
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が 楽しんだり、活動できるように活 かしている	ご利用者と共にテラスの手入れを したり、野菜づくりを行っている。 楽しみに繋がるようにしている。		安全に生活出来るように環境を 整え自由に過ごせる様にして 行きたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ヒヤリハットを活用し各スタッフのリスクに対する意識付けをしている。
- ・職員間で勉強会を行いケアの向上につなげている。
- ・お客様お一人お一人の個性を大切に笑顔を引き出せるようなケアの取り組みをしている。生活感やこだわりの大切さを考慮している。
- ・積極的にミーティングを行い、スタッフ・管理者が一丸となり個別のケアに取り組んでいる。